

紫竹学林会通信

2016年12月7日 No.24

2016年度の第32回「紫竹学林会」(大学院地理学専攻OB/OG会)の会合を2017年1月21日(土)に、大学院棟のある深沢キャンパスにて以下の要領で開催いたします。今回は、本年度で定年退職される第5期OB高木正博先生(駒澤大学文学部教授)に「都市の川と水—中小河川の水質を調べて—」と題して最終講義をお願いしました。また同日、地理学教室主催の「修士論文発表会」が「紫竹学林会」の前に開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2017年1月21日(土)

会場：駒澤大学 深沢キャンパス・アカデミーホール2階2-1 会議室

修士論文発表会(地理学教室主催)

【修論発表会】 13:30~15:20 (発表20分+質疑5分)

松浦 誠	：「明治期～昭和戦前期における天理教信者の団体参詣」	13:30~13:55
本田 覚	：「沼津市の都市構造と中心商店街の変化」	13:55~14:20
大野有里沙	：「山村における伝統工芸の存在意義—長野県栄村の猫つぐらを事例に—」	14:30~14:55
杉本 惇	：「箱根山におけるイベント降水の安定同位体比特性」	14:55~15:20

紫竹学林会(最終講義・総会・懇親会)・地理学教室共催

【最終講義】 15:30~17:00 (修士論文発表会と同じ会場)

高木正博先生：「都市の川と水—中小河川の水質を調べて—」

高木先生(本学大学院第5期生)は、大学院生時代、地理学科助手時代から今日まで「水」をテーマに研究を進められ、多くの学生を世に送り出されてきましたが、今年度で定年退職されます。高木先生の43年間の研究教育生活を振り返って、大学院の最終講義をお願いしました。

講義要旨：都市の川は人の手によって、時代とともに変化してきた。河道形態はもちろん、流れる水も時代の波を受けて大きく変化している。永年続けてきた水質調査実習などの結果からその変化を追ってみたい。

(なお、高木先生の学部の「応用地理学」の最終講義は1月6日(金)3時限目(13:00~14:30)に中央講堂で「川とともに半世紀—川をとおして地理を学ぶ」と題して行われます。こちらもどうぞご参加ください。)

【総会】 17:00~17:20 (大学院OB/OG会員・院生のみ)：2016年度会計報告, その他

【懇親会 高木先生を囲んで】 17:20~19:00 (大学院OB/OG会員だけでなく、学部生や卒業生、どなたでも参加できます。)参加される場合は1月14日までに地理学科の高橋健太郎 takahasi@komazawa-u.ac.jp 宛にメール, または地理学科事務室 03-3418-9259 宛 FAX をくださるようお願いいたします。

会場：駒澤大学深沢キャンパス 洋館大ホール 会費：5000円(院生・学部生：2000円)